

特定非営利活動法人日本放課後児童指導員協会

第三者評価

自己評価シート

基本情報

◆自己評価シート①「基本情報」（本シート）、②放課後児童健全育成事業版自己評価シート【共通評価基準】、③同【内容評価基準】」をご記入ください。

【基本情報】

①施設・事業所情報

名称	金子学童保育室				種別	放課後児童クラブ		
代表者氏名	高井 順子				定員（利用人数）	50	名	
所在地	入間市西三ツ木150金子小学校地内							
TEL	04	-	2936	-	3271	ホームページ		

〔施設・事業所の概要〕

開設年月日		令和	3	年	4	月	1	日		
経営法人・設置主体（法人名等）		入間市・株式会社コマーム								
職員数	常勤職員	2	名	非常勤職員	5	名				
専門職員	（専門職の名称）	人数		放課後児童支援員	1	名				
	小学校教諭	1	名			名				
			名			名				
施設・設備の概要	（居室数） ※「事務室1、静養室1、支援室1、トイレ2、…」などのように設備ごとに記入してください。 台所2、倉庫1、保育室1、トイレ4、非常口3、エアコン2、扇風機5									

②理念・基本方針

経営理念：こころ ま～るく むすぶコマームは『子育てにしあわせな社会を創造します。』
ビジョン：1. 子ども達の最高の笑顔のために 2. 社員のしあわせの追究 3. しなやかな経営で永続
基本方針：つながる児童クラブから子ども力発信
1. 子どもの居（要）場所 2. 育ちと学びの物語 3. 子どもから始まる人と人のつながり 4. 地域まると児童クラブ 5. しなやかな経営

③施設・事業所の特徴的な取組

季節行事：子ども達が主体的となって行う季節ごとの行事。
ここまるひろば：ボランティアを招き、子ども達へ遊びの提供。
地域連携：地域資源の活用による充実した保育環境の提供（図書館・市内児童センターとの連携）
施設研究会：施設及び事務局職員が集い、コミュニケーションワークや事例研究を行う（毎月1回開催）

④第三者評価の受審状況

評価実施期間 ※記入不要	(契約日)												(評価結果確定日)					
	令和		年		月		日	～	令和		年		月		日			
受審回数						回	前回の受審時期									年度		

【自己評価の実施】

①実施日

令和	3	年	11	月	1	日
----	---	---	----	---	---	---

②担当者

担当者氏名	笹野 晋助
-------	-------

③自己評価の実施体制等

金子学童保育室 高井順子（チーフ）・井上 貴生（常勤職員）
事務局：第2事業部 笹野 晋助（部長）・小田 健一（課長）・望月 梨花（マネージャー）

④課題等

自己評価を実施したうえで全体に関する課題や疑問などがありましたらご自由にお書きください。
評価項目について、大変参考になり学ぶことが多かったです。
まだまだ取り組めていない内容が多く、現状に満足せず改善につなげていきたい。

特定非営利活動法人日本放課後児童指導員協会

第三者評価

自己評価シート

【共通評価基準】

【自己評価の実施にあたって】

●第三者評価基準「評価の着眼点」や「評価基準の考え方と評価の留意点」を参考に自己評価をしてください。

●「評価の着眼点」については、当てはまる項目に○、特記すべき取り組みをしている場合は◎、当てはまらない項目は△を記入してください。

●特記事項欄には、◎をつけた項目についての詳細情報や、△をつけた項目について取り組めていない事情など自由に記述を行なってください。

●「自己評価結果」については、各評価基準の「評価の着眼点」をすべて入力すると、自動的に表示されます。

「自己評価結果」は、「評価の着眼点」の○・◎の数に準じて、下記の通り算出しております。

☆「自己評価結果」の算出方法について☆			
「評価の着眼点」が1項目	→	○・◎が計 1 項目→A	○・◎が0項目→C
「評価の着眼点」が3項目	→	○・◎が計 3 項目→A	○・◎が計 2 項目→B
「評価の着眼点」が4項目	→	○・◎が計 4 項目→A	○・◎が計 3 項目→B
「評価の着眼点」が5項目	→	○・◎が計 5 項目→A	○・◎が計 3, 4項目→B
「評価の着眼点」が6項目	→	○・◎が計5, 6項目→A	○・◎が計3, 4項目→B
「評価の着眼点」が7項目	→	○・◎が計5-7項目→A	○・◎が計3, 4項目→B
「評価の着眼点」が8項目	→	○・◎が計6-8項目→A	○・◎が計4, 5項目→B
			○・◎が計1項目以下→C
			○・◎が計2項目以下→C
			○・◎が計2項目以下→C
			○・◎が計2項目以下→C
			○・◎が計2項目以下→C
			○・◎が計2項目以下→C
			○・◎が計3項目以下→C

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		自己評価結果	評価の着眼点（○，◎，△のいずれかを記入）	
1	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	A	理念、基本方針が放課後児童クラブ内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	判断した理由・特記事項等		理念は、放課後児童クラブが実施する福祉サービスの内容や特性を踏まえた放課後児童クラブの使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	保護者へは掲示物を入り口に掲示して対応しているが、子どもへ口頭で伝えたりするなどの周知は出来ていない。		基本方針は、放課後児童クラブの理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
			理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
			理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	△
			理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○

I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		自己評価結果	評価の着眼点（○，◎，△のいずれかを記入）	
2	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	A	社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	判断した理由・特記事項等		地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	入間市をはじめ、地域の関係機関との連携により情報収集に努めている		利用者数・利用者像等、放課後児童クラブのニーズ、潜在的利用者に関するデータを収集するなど、放課後児童クラブが位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
			定期的に放課後児童クラブのコスト分析や放課後児童クラブ利用者の推移、利用率等の分析を行っている。	○
3	② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	A	経営環境や実施する福祉サービスの内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	判断した理由・特記事項等		経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	経営会議を通じて、役員を含めた経営幹部で経営課題の共有と、改善について定期的な協議を行っている。（定例月1回・臨時開催あり）		経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
			経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

I-3 事業計画の策定

I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		自己評価結果	評価の着眼点（○，◎，△のいずれかを記入）	
4	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	C	中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	判断した理由・特記事項等		中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	△
	中長期計画は10年ビジョンに基づき策定されているが、具体的な周知までは行われていない。		中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	△
			中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	△
5	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	A	単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	○
	判断した理由・特記事項等		単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○

特定非営利活動法人日本放課後児童指導員協会

第三者評価自己評価シート

【共通評価基準】

単年度計画は、経営理念とビジョンに基づき9つの項目で策定され、年間の行動目標とKPIを定めて、毎月ロードマップを基に進捗管理が行われている。	単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

特定非営利活動法人日本放課後児童指導員協会

第三者評価

自己評価シート

【共通評価基準】

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		自己 評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	B	事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	判断した理由・特記事項等		計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	事業計画は職員の声を反映して策定がされている。毎月実施の研究会でも共有している。		事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
			評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
			事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	△
7	② 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	C	事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	△
	判断した理由・特記事項等		事業計画の主な内容を保護者会等で説明している。	△
	保護者や児童への周知については具体的に行われていない。保護者会も存在していないため。		事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	△
			事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	△

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		自己 評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
8	① 放課後児童クラブの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	C	組織的にPDCAサイクルにもとづく放課後児童クラブの質の向上に関する取組を実施している。	○
	判断した理由・特記事項等		放課後児童クラブの内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	今回初めて第三者評価を受けるため。		定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	△
			評価結果を分析・検討する場が、組織として位置づけられ実行されている。	△
9	② 評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	C	評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	△
	判断した理由・特記事項等		職員間で課題の共有化が図られている。	○
	今回初めて第三者評価を受けるため。		評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	△
			評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	△
			改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	△

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

II-1-(1) 運営主体の責任が明確にされている。		自己 評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
10	① 運営主体は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	B	運営主体は、自らの放課後児童クラブの経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	判断した理由・特記事項等		運営主体は、自らの役割と責任について、組織内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	有事の際に、責任者不在時の権限移譲について明確化の改善が可能と判断した		運営主体は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
			平常時のみならず、有事(災害、事故等)における運営主体の役割と責任について、責任者不在時の権限委任等を含め明確化されている。	△
11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	A	運営主体は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	判断した理由・特記事項等		運営主体は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	コンプライアンスにおける取組は、外部講師を招いた講習を実施している。		運営主体は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
			運営主体は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

特定非営利活動法人日本放課後児童指導員協会

第三者評価

自己評価シート

【共通評価基準】

Ⅱ-1-(2) 運営主体のリーダーシップが発揮されている。		自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
12	① 放課後児童クラブの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	A	運営主体は、実施する放課後児童クラブの質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	判断した理由・特記事項等		運営主体は、放課後児童クラブの質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	事務局は施設のサポートオフィスとして、施設の声を反映させることを使命としている。定期的な訪問やヒアリングを通じて、質の向上へとつなげている。		運営主体は、放課後児童クラブの質の向上について組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
			運営主体は、放課後児童クラブの質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
			運営主体は、放課後児童クラブの質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	A	運営主体は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	判断した理由・特記事項等		運営主体は、組織の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	事務局では毎週、役員を含めた経営幹部が集い、人事・労務・財務の観点から採用・メンタルケアにおける現状把握と改善について協議を行っている。		運営主体は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、組織内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
			運営主体は、経営の改善や業務の実効性を高めるために組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	A	必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	判断した理由・特記事項等		放課後児童支援員の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	適宜実施している。		計画にもとづいた人材の確保や育成が実施されている。	○
			放課後児童クラブとして、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
15	② 総合的な人事管理が行われている。	B	放課後児童クラブの理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	○
	判断した理由・特記事項等		人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	△
	人事基準について、職員等に周知されていない部分がある。		一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	△
			職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	△
			把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○
			職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができている。	○
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	A	職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	判断した理由・特記事項等		職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	弊社ではワークライフ・バランスからワークライフ・ハピネスの進化を目標に、職員一人ひとりの意向調査から面談を行っている。相談窓口も設け、日頃の悩みも気軽に話せる環境に努めています。		職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
			定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を組織内に設置するなど、職員が相談しやすいような組織内の工夫をしている。	○
			職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
			ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)に配慮した取組を行っている。	○
			改善策については、福祉人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
			福祉人材の確保、定着の観点から、組織の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

特定非営利活動法人日本放課後児童指導員協会

第三者評価

自己評価シート

【共通評価基準】

Ⅱ－2－(3) 職員の質の向上に向けた体制が 確立されている。		自己 評価結果	評価の着眼点 (○, ◎, △のいずれかを記入)	
17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	B	組織として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	判断した理由・特記事項等 自己評価を基に、面談にて振り返りと今後の目標を立てられるよう『私のみちしるべ』というシステムを導入している。		個別面接を行う等組織の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	○
			職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	△
			職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
			職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○
18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	A	組織が目指す放課後児童クラブを実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	判断した理由・特記事項等 社内研修については年間で計画が組まれている。 理想とする社員像を基に、コミュニケーションワークを実施している。		現在実施している放課後児童クラブの内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、組織が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
			策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
			定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
			定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○
19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	A	個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	判断した理由・特記事項等 常勤職員には階層別の研修を実施しており、その内容を月に1度の施設研究会で非常勤職員へも共有をしている。 外部研修については常勤職員が優先となるが、非常勤職員にも参加をしてもらえるよう配慮している。		新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
			さまざまな職員が参加して、事例検討を実施している。	○
			階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
			外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
			職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
Ⅱ－2－(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職 の研修・育成が適切に行われている。		自己 評価結果	評価の着眼点 (○, ◎, △のいずれかを記入)	
20	① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	B	実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	判断した理由・特記事項等 実習生の受け入れについて、学校側との連携を密に行っている。		実習生等の福祉サービスの専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	△
			専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	△
			指導者に対する研修を実施している。	○
			実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		自己 評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	C	ホームページ等の活用により、放課後児童クラブの理念や基本方針、提供する育成支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	△
	判断した理由・特記事項等 第三者評価は今回が初めての実施のため△にしました。		放課後児童クラブにおける地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	△
			第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	△
			放課後児童クラブの理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、放課後児童クラブの存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
			地域へ向けて、理念や基本方針、児童館で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○
22	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	A	放課後児童クラブにおける事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	判断した理由・特記事項等 労務管理・経理管理共に外部の専門機関から毎月確認を行っていたであり、指摘事項がある際にはその都度改善に努めている。		放課後児童クラブにおける事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
			放課後児童クラブの事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○

特定非営利活動法人日本放課後児童指導員協会

第三者評価

自己評価シート

【共通評価基準】

		外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○
--	--	---	---

特定非営利活動法人日本放課後児童指導員協会

第三者評価

自己評価シート

【共通評価基準】

Ⅱ－４ 地域との交流、地域貢献

Ⅱ－４－（１） 地域との関係が適切に確保されている。		自己 評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
23	① 放課後児童クラブと地域との交流を広げるための取組を行っている。	B	地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	判断した理由・特記事項等		様々な社会資源(自治会・町内会や民生委員・児童委員(主任児童委員)等の地域組織、放課後子供教室、児童館等)と連携している。	○
	以前は公民館でのお祭りや映画上映などで交流していたが、コロナ禍に入り、地域の人々との交流する機会がなくなってしまったため。		子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
			放課後児童クラブへの理解を得るために、地域の人々と放課後児童クラブとの交流の機会を定期的に設けている。	△
			個々の利用者のニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	B	ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	判断した理由・特記事項等		地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	○
			ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	△
Ⅱ－４－（２） 関係機関との連携が確保されている。		自己 評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
25	① 放課後児童クラブとして必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	A	当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもや保護者等の状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	判断した理由・特記事項等		職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	現在、虐待の疑いのある家庭についてこども支援課や学校などと連携を取り相互に連絡を取れる関係を作っている。		関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
			地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
			家庭での虐待など権利侵害が疑われる子どもへの対応について、要保護児童対策地域協議会への参画、児童相談所など関係機関との連携が図られている。	○
			子どもの発達・生活の連続性を保障するために、情報交換や情報共有、職員同士の交流等により、学校や、保育所、幼稚園等との積極的な連携が図られている。	○
Ⅱ－４－（３） 地域の福祉向上のための取組を行っている。		自己 評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
26	① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	C	放課後児童クラブが実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	△
	判断した理由・特記事項等			
	コロナ禍に入り、地域の人々との交流する機会がなくなってしまったため。			
27	② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	C	把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	△
	判断した理由・特記事項等		把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	△
	コロナ禍に入り、地域の人々との交流する機会がなくなってしまう、そのような取り組みを行っていない		多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	△
			放課後児童クラブが有する福祉サービスの提供に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	△
			地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	△

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

Ⅲ-1-(1) 子どもや保護者等を尊重する姿勢が明示されている。		自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
28	① 子どもや保護者等を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	B	理念や基本方針に、子どもや保護者等を尊重した福祉サービスの実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	判断した理由・特記事項等		子どもや保護者等を尊重した福祉サービスの提供に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	△
	月一回研究会というスタッフ研修・勉強会を行っているが、倫理綱領の策定は行っていない		子どもや保護者等を尊重した福祉サービス提供に関する基本姿勢が、個々の福祉サービスの標準的な実施方法等に反映されている。	△
			子どもや保護者等の尊重や基本的人権への配慮について、組織で勉強会・研修を実施している。	○
			子どもや保護者等の尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○
29	② 子どもや保護者等のプライバシー保護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	A	子どもや保護者等のプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	判断した理由・特記事項等		規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した福祉サービスが実施されている。	○
	月一回の研究会というスタッフ研修・勉強会にて周知・取り組みを行っている		一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
			子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
30	① 利用希望者に対して放課後児童クラブ選択に必要な情報を積極的に提供している。	C	理念や基本方針、実施する育成支援の内容や放課後児童クラブの特性等を紹介した資料を、公共施設等の多くの人が入手できる場所に置いている。	△
	判断した理由・特記事項等		組織を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	△
	会社の資料等はあるが、公共施設等には置いていない。また、見学、体験入所、一日利用などは市役所で受け付けておらず実施していない		放課後児童クラブの利用希望者については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
			見学、体験入所、一日利用等の希望に対応している。	△
			利用を希望する子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	△
31	② 放課後児童クラブの利用開始・変更にあたり子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	A	放課後児童クラブの利用開始・変更の内容に関する説明と同意にあたっては、保護者等の意向に配慮している。	○
	判断した理由・特記事項等		放課後児童クラブの利用開始・変更時には、保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○
	利用開始・変更には適切な対応を行っている。		説明にあたっては、保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○
			放課後児童クラブの利用開始・変更時には、保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
			特に配慮が必要な子どもとその保護者等への説明についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○
			特に新1年生の環境変化に配慮して、利用の開始の前に、子どもや家庭の状況、保護者等のニーズ等について、把握確認し、放課後児童クラブでの過ごし方について十分に保護者等に分かりやすく説明し、情報交換をしている。	○
Ⅲ-1-(3) 子どもや保護者等の満足度の向上に努めている。		自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
32	① 子どもや保護者等の満足度の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	C	子どもや保護者等の満足度に関する調査が定期的に行われている。	△
	判断した理由・特記事項等		子どもや保護者等への個別の相談面接や聴取、懇談会が、子どもや保護者等の満足度を把握する目的で定期的に行われている。	△
	アンケートなどの調査は現在行っていない。今後、サービス向上のため実施していく見込み		子どもや保護者等の満足度に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子どもや保護者自身の参画のもとで検討会議の設置等行われている。	△
			分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	△

特定非営利活動法人日本放課後児童指導員協会

第三者評価

自己評価シート

【共通評価基準】

Ⅲ-1-(4) 子どもや保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている。		自己評価結果	評価の着眼点(該当する場合は○、◎を記入)	
33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	B	苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	判断した理由・特記事項等		苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	△
	苦情解決のための掲示物や、本社HPにも対応窓口が設置されていないため、子どもや保護者に周知できていない。しかし、苦情が現場に来ることはあるため、その際は適宜適切な対応を取っている。		苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	△
			苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管されている。	○
			苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	○
			苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	△
			苦情相談内容にもとづき、放課後児童クラブの質の向上に関わる取組が行われている。	○
34	② 子どもや保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、子どもや保護者等に周知している。	C	子どもや保護者等が相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	△
	判断した理由・特記事項等		子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	△
	相談できる環境はあるが、文書の設置や掲示物の掲示を行っていない		相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○
35	③ 子どもや保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	A	職員は、日々の福祉サービスの提供において、子どもや保護者等が相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	判断した理由・特記事項等		意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもや保護者等の意見を積極的に把握する取組を行っている。	△
	意見箱の設置やアンケートの実施は行っていない		相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
			職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
			意見等にもとづき、放課後児童クラブの質の向上に関わる取組が行われている。	○
			対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		自己評価結果	評価の着眼点(○, ◎, △のいずれかを記入)	
36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	A	リスクマネジメントに関する責任者を明確化するなどの体制を整備している。	○
	判断した理由・特記事項等		事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	月一回の研究会というスタッフ研修・勉強会にて周知・取り組みを行っている		子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
			収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
			職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
			事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○
37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	A	感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	判断した理由・特記事項等		感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○
	月一回の研究会というスタッフ研修・勉強会にて周知・取り組みを行っている。マニュアルも常設されている。		担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
			感染症の予防策が適切に講じられている。	○
			感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	○
			感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	○
38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	B	災害時の対応体制が決められている。	○
	判断した理由・特記事項等		立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、福祉サービス提供を継続するために必要な対策を講じている。	○
	防災計画は組まれているが、関係団体等と連携した訓練は実施されていない。		子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○

特定非営利活動法人日本放課後児童指導員協会

第三者評価自己評価シート

【共通評価基準】

		防災計画等を整備し、地元の行政をはじめ、学校、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	△
		保護者等が災害により帰宅困難となった場合の対応方法が決められ、保護者等と共有されている。	△

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

Ⅲ-2-(1) 育成支援の標準的な実施方法が確立している。		自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
39	① 育成支援について標準的な実施方法が文書化され育成支援が提供されている。	B	標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	判断した理由・特記事項等		標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	○
	月一回研究会というスタッフ研修・勉強会を行っており標準化を行える環境づくりはしているが、確認する仕組みがない		標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
			標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	△
40	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	B	育成支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が組織で定められている。	○
	判断した理由・特記事項等		育成支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的の実施されている。	○
	月一回研究会というスタッフ研修・勉強会を行っており育成支援の実施しているが、子どもや保護者等から意見や提案を受ける仕組みがない		検証・見直しにあたり、育成支援の計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
			検証・見直しにあたり、職員や子どもや保護者等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	△

特定非営利活動法人 日本放課後児童指導員協会 第三者評価 自己評価シート
【内容評価基準】

【自己評価の実施にあたって】

- 第三者評価基準「評価の着眼点」や「評価基準の考え方と評価の留意点」を参考に自己評価をしてください。
- 「評価の着眼点」については、当てはまる項目に○、特記すべき取り組みをしている場合は◎、当てはまらない項目は△を記入してください。
- 特記事項欄には、◎をつけた項目についての詳細情報や、△をつけた項目について取り組めていない事情など自由に記述を行なってください。
- 「自己評価結果」については、各評価基準の「評価の着眼点」をすべて入力すると、自動的に表示されます。
- 「自己評価結果」は、「評価の着眼点」の○・◎の数に準じて、下記の通り算出しております。

☆「自己評価結果」の算出方法について☆

「評価の着眼点」が3項目	→ ○・◎が計 3 項目→A	○・◎が計 2 項目→B	○・◎が計1項目以下→C
「評価の着眼点」が4項目	→ ○・◎が計 4 項目→A	○・◎が計 3 項目→B	○・◎が計2項目以下→C
「評価の着眼点」が5項目	→ ○・◎が計 5 項目→A	○・◎が計3, 4項目→B	○・◎が計2項目以下→C
「評価の着眼点」が6項目	→ ○・◎が計5, 6項目→A	○・◎が計3, 4項目→B	○・◎が計2項目以下→C
「評価の着眼点」が7項目	→ ○・◎が計5-7項目→A	○・◎が計3, 4項目→B	○・◎が計2項目以下→C
「評価の着眼点」が8項目	→ ○・◎が計6-8項目→A	○・◎が計4, 5項目→B	○・◎が計3項目以下→C
「評価の着眼点」が9項目	→ ○・◎が計7-9項目→A	○・◎が計4-6項目→B	○・◎が計3項目以下→C

1	子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整備している。	自己 評価結果	評価の着眼点 (○, ◎, △のいずれかを記入)	
		A	子どもの基本的な生活の場としての機能を満たすための設備及び備品等を備えている。	○
	判断した理由・特記事項等		発達段階に応じて、子どもの遊びを豊かにするために必要な遊具などの備品を備えている。	○
	4月から子どもたちに合ったおもちゃ・児童書を購入や、おもちゃ収納箱を設置するなど環境整備している。		発達段階に応じて、子どもの遊びを豊かにするために必要な設備や空間などの環境を整えている。	○
			子どもの生活を豊かにするために必要な図書や情報機器などを備えている。	○
			体調が悪いときなどに静養できるスペース(専用区画)が確保されている。	○
			自習や宿題等の学習活動に落ち着いて取り組める環境を整えている。	○
2	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	自己 評価結果	評価の着眼点 (○, ◎, △のいずれかを記入)	
		A	子どもに対して放課後児童クラブに通う必要性について、保護者と共に理解を促している。	○
	判断した理由・特記事項等		入所時をはじめとして、適宜子どもが放課後児童クラブでの過ごし方を理解できるように工夫している。	○
	送迎時に保護者と会話する際に日常生活の様子や、子どもたちが楽しくなるような行事を行うことを伝えている。		子どもがクラブへ自ら進んで通いたくなるような生活および活動の内容等を工夫している。	○
			日々の子どもの様子について、日常的かつ定期的に保護者に伝えるための取り組みがある。	○
			日々の育成支援の内容について、日常的かつ定期的に保護者に伝えるための取り組みがある。	○
			保護者が年度途中の転居以外で退所を検討している際、その理由を把握し、適切な対応を行っている。	○
3	子どもの出欠席と心身の状態を把握して、適切に援助している。	自己 評価結果	評価の着眼点 (該当する場合は○、◎を記入)	
		A	出欠席のチェック漏れが起きないよう、チェック体制が確立されている。	○
	判断した理由・特記事項等		登所時に子どもが安心感を抱けるためにコミュニケーションを適宜とることができている。	○
	出欠に関してはダブルチェックを行っている。登所時に支援員・補助員が入り口の外までお迎えし、子どもの様子を把握することに努めている。		登所時に子どもの身体的な状態の把握を行い、必要に応じて援助している。	○
			登所時に子どもの情緒的な状態の把握を行い、必要に応じて援助している。	○
4	子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるように援助している。	自己 評価結果	評価の着眼点 (○, ◎, △のいずれかを記入)	
		A	子どもが心身共に無理のない過ごし方ができるように配慮している。	○
	判断した理由・特記事項等		子どもが放課後の時間を主体的に過ごせるように子どもたちとの話し合いなどの場を設けられている。	○
	子どもたちが主体的に活動できるような環境づくり、援助を適切に行っている		子どもが集団生活になじむことができ、継続して過ごしやすできるように援助をしている。	○
			子どもが自分たちで集団生活の流れやルールを作りながら過ごせるように援助している。	○

特定非営利活動法人日本放課後児童指導員協会

第三者評価自己評価シート

【内容評価基準】

5	放課後児童クラブでの生活を通して、日常生活に必要なとなる基本的な生活習慣を習得できるようにしている。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		A	子どもが日常生活に必要なとなる基本的な生活習慣の内容を理解できるように援助している。	○
	判断した理由・特記事項等		子どもが健康や衛生に関することを身につけられるように援助している。	○
	子どもたちが社会で集団生活を送れるような環境づくり、援助を適切に行っている		子どもが持ち物の管理や整理整頓等の生活習慣が身につけられえるように援助している。	○
			子どもが集団生活の中で役割分担を持ち、お互いに協力し合えるように援助している。	○
			子どもが基本的な生活習慣を習得しやすい環境構成ができています。	○
6	子どもが発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるように援助している。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		A	子ども一人ひとりの心身の発育・発達の状況を把握できている。	○
	判断した理由・特記事項等		子ども一人ひとりの養育環境の状況を把握できている。	○
	子どもたちが主体的に活動できるような環境づくり、援助を適切に行っている。子ども一人ひとりの心身の状況把握も日々、職員間で共有できている		子ども一人ひとりの遊びが充実できるように援助している。	○
			子ども一人ひとりの活動時における心身の状態を把握し、職員間で共有できている。	○
			子どもに静養や気分転換が必要だと気づいた時には適切な対応ができています。	○
7	子ども同士の関係を豊かに作り出せるように援助している。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		A	子ども同士で自発的に遊びを作り出せるような時間や環境を整えている。	○
	判断した理由・特記事項等		子ども同士の意見の対立やけんか等について、適切に援助している。	○
	遊びの際に子どもたち同士で自発的にルール決め等をしており、それを援助できる体制・環境を整えている。		子どもの間でいじめなどの人権を侵害するような関係が生じないよう配慮している。	○
			子ども同士の問題が生じたときには、保護者や関係機関と連携を取りながら早期に対応している。	○
8	子どもが自分の気持ちや意見を表現することができるように援助し、放課後児童クラブの生活に主体的に関わることができるようにしている。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		A	子どもの情緒の変化に配慮し、子どもの意見を尊重して育成支援を行なっている。	○
	判断した理由・特記事項等		子ども同士の関係に配慮し、子どもの意見を尊重して育成支援を行なっている。	○
	登所時に声掛けを行う際に、落ち込んでいたり怒っていたりと、いつもと様子が違う児童に対してじっくり話を聞くようにしている。行事は児童の週間単位での休みを考慮し、数日間行えるような取り組みしている。		子ども一人ひとりと悩みや相談事も話せるような信頼関係を築けている。	○
			行事等を行う際、子ども同士が意見を出し合う機会を設けている。	○
			行事等を行う際、子どもに活動の目的や大まかな内容を説明している。	○
			行事等を行う際、保護者に活動の目的や大まかな内容を説明している。	○
			行事等を行う際、子ども自身が運営に関わる際の段取り等をわかりやすく伝えている。	○
9	障害のある子どもの受入れの考え方を理解したうえで、受入れに努めている。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		C	障害のある子どもの利用機会について、周知を行っている。	△
	判断した理由・特記事項等		障害のある子どもの受入れの判断について、あらかじめ判断の基準や手続等を定めている。	△
	現在、障がいのある子どもの在籍がないため。施設もスロープや多目的トイレなど設置されていない		障害のある子どもの受入れにあたっては、個々の子ども・保護者の状況を詳細に把握している。	○
			障害のある子どもの受入れにあたっては、予め保育所等と連携して情報共有などを行っている。	△
			障害のある子どもの個々の状況に応じて、施設・環境や育成支援の内容に関する配慮を行っている。	○

特定非営利活動法人

日本放課後児童指導員協会

第三者評価

自己評価シート

【内容評価基準】

10	障害のある子どもへの適切な育成支援を行うことができている。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		C	障害のある子ども一人ひとりの状況や育成支援の内容を記録している。	△
	判断した理由・特記事項等		障害のある子ども一人ひとりの状況や育成支援の内容を共有している。	△
	現在、障がいのある子どもの在籍がないため。		障害のある子どもの育成支援について事例検討を行なっている。	△
			障害のある子どもの育成支援について学校や放課後等デイサービス等、他機関との連携を図っている。	△
11	特に配慮を必要とする子どもへの適切な育成支援を行うことができている。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		A	家庭での養育等について特別な支援が必要な状況を把握した場合には、市町村や関係機関と連携して適切な支援につなげている。	○
	判断した理由・特記事項等		特に配慮を必要とする子どもの支援に当たっては、保護者や関係機関と連携をしている。	○
	現在、虐待の疑いのある家庭についてこども支援課や学校などと連携を取り相互に連絡を取れる関係を作っている。		児童虐待を発見した後の市町村等への通告や対応の手順について、あらかじめ定めている。	○
			要保護児童対策地域協議会など関係機関と連携、協力できる体制を構築している。	○
12	子どもにとって放課後の時間帯に栄養面や活力面から必要とされるおやつを適切に提供している。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		A	栄養面や活力面を考慮し、おやつを提供時間や方法を工夫している。	○
	判断した理由・特記事項等		子どもたちの状態や季節等を考慮して、おやつの内容を工夫している。	○
	学年ごとで子どもたちの身体の発達や下校時間も異なるので、配慮して提供している。行事や季節感を楽しくめるように心掛けている。		子どもたちがおやつを楽しめるような環境づくりを工夫している。	○
13	食に伴う事故（食物アレルギー事故、窒息事故、食中毒等）を防止するための対応を行っている。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		A	食に伴う事故の緊急時対応のマニュアルを整備し、全職員に周知している。	○
	判断した理由・特記事項等		すべての子どものアレルギーの有無を利用開始までに調査し、情報を共有している。	○
	食事の際に食中毒にならないための声掛けは実践しているが、点検項目を定めたり、食物アレルギー訓練の実施は行えていない。		食物アレルギーのある子どもへのおやつや食事の提供について、対応方針を定めている。	○
			食物アレルギーのある子どもへのおやつや食事の提供について、子ども・保護者と緊急時の対応を共有している。	○
			食物アレルギー等の対応方法に関する基本的な事項について、定期的に訓練を実施している。	△
			窒息事故等がないよう、安全確認を徹底し、危機管理体制を整えている。	○
			食中毒防止のための点検項目を定めており、実際に防止のための対応ができている。	△
14	子どもが安全に安心して過ごすことができるように環境を整備するとともに、緊急時に適切な対応を行なっている。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		B	施設整備や遊具等の安全点検、整理整頓、清掃等を日常的に行っている。	○
	判断した理由・特記事項等		安全管理に関する点検について、点検項目、点検頻度、点検者を定め、定期的に点検を行っている。	○
	事故・ケガの記録は保管しているが、時刻の記載がないため、今後改善予定。来所経路は敷地内のためも受けておらず、帰宅経路は保護者等が必ずお迎えに来るようになっているため把握していない		事故やケガの防止や、発生時の対応についての方針を策定している。	○
			子どもの病気やケガの場合、保護者と速やかに連絡をとれるようにしている。	○
			事故やケガが発生した場合、その発生時刻や場所、その内容や対応の経過について正確な時刻の記述も含めて記録、共有をしている。	△
			子どもの来所経路や帰宅経路における安全確保について、計画やマニュアルを作成している。	△
			子どもの来所経路や帰宅経路における安全確保について、計画やマニュアルを保護者に共有している。	△
			子どもの来所経路や帰宅経路における安全確保について、地域の人々の理解と協力を得られている。	△
			子どもの主な行動範囲を中心とした地域の中での子どもの行動や環境を把握している。	○

特定非営利活動法人 日本放課後児童指導員協会

第三者評価 自己評価シート

【内容評価基準】

15	子どもの衛生管理に関して、取組や対応を適切に行なっている。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		C	施設整備の衛生に関して、点検項目、点検頻度、点検者を定めている。	△
	判断した理由・特記事項等		衛生管理に関する点検を毎日行っている。	△
	衛生管理の声掛けは実践しているが、文書で点検項目を定めてチェックする体制は整っていない。		日常の衛生管理について、子どもたちとともに努めている。	○
			子どもが調理や準備をする際、衛生管理を徹底して行っている。	△
			放課後児童支援員等の手洗いや爪切り、消毒等の衛生管理を徹底している。	○
16	子どもや保護者等を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		B	子育てのこと等について、保護者が相談しやすい雰囲気を作っている。	○
	判断した理由・特記事項等		保護者が放課後児童クラブの活動や行事に参加、協力する機会を設けている。	○
	入間市の方針として保護者会を行っていないため。		保護者会や行事・活動を工夫して、保護者同士の交流の場を設けている。	△
			保護者が放課後児童クラブの運営に協力する関係を築いている。	○
			宿題への対応について、保護者と共通の理解を持てるようにしている。	○
17	育成支援の目標が適切に策定されている。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		C	クラブ全体としての子どもたちの育成支援のための目標を策定している。	○
	判断した理由・特記事項等		クラブ全体としての子どもたちの育成支援の目標について、子どもたちにもわかるように伝えている。	△
	一人ひとりの育成支援について、ある程度の子どもに対しては目標を定めていますが、全員までは定められておりません。		クラブ全体としての子どもたちの育成支援の目標については、定期的に見直しが行われている。	△
			子ども一人ひとりの育成支援の目標を策定している。	△
			子ども一人ひとりの育成支援の目標について、子どもや保護者に伝えている。	△
18	育成支援の計画が適切に策定・実施・改善されている。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		C	子どもの具体的なニーズを明示した育成支援の計画を策定している。	△
	判断した理由・特記事項等		育成支援の目標に基づいた育成支援の計画を策定している。	△
	上記の通り、一人ひとりの育成支援について、ある程度の子どもに対しては目標を定めていますが、全員までは定められていないので計画までは実践できていない。		育成支援の計画については、職員の合議によって策定している。	△
			育成支援の計画どおりに育成支援が行われたことを確認・評価できる仕組みが構築されている。	△
			育成支援の計画については、定期的に見直しが行われている。	△
			子ども一人ひとりの育成支援の計画について、子どもや保護者に伝えている。	△
19	子どもの状況や育成支援の内容が記録されている。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		C	子どもの身体状況や生活状況等を、統一した共通の様式によって記録している。	△
	判断した理由・特記事項等		育成支援の計画に基づいて育成支援が実施されているか、記録を活用して確認している。	△
	家庭の事情で配慮が必要な児童のみ記録しているが、全員の記録を取ることは行えていない		記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領を作成している。	△
			子どもの状況の記録は、必要に応じて保護者とも共有されている。	△

特定非営利活動法人日本放課後児童指導員協会

第三者評価

自己評価シート

【内容評価基準】

20	クラブ内での事例検討を通した育成支援の充実・改善が行われている。	自己評価結果	評価の着眼点（○, ◎, △のいずれかを記入）	
		B	職員会議などの場で、定期的に事例検討会を行っている。	○
	判断した理由・特記事項等		事例検討の目的が明確にされていて、その目的に応じた事例検討ができている。	○
	月1回の研究会で事例研究を行っているが、実践記録の資料化はしていない		事例検討を行うための実践記録などの資料を作成している。	△
			事例検討では、キャリアや立場にかかわらず闊達な意見交換ができるようにしている。	○
21	基準条例を超えて、設備及び運営を向上させる取組をしている。			
	何かクラブ独自で行っている取組があれば具体的に記入してください。			
	他の入間市が運営している学童との違いでは、長期休暇中に昼食のお弁当配食サービスを市で初めて行った。夏休み期間に入間市児童センター（アイクス）と連携を図って、合同行事を計画した。8月に緊急事態宣言が発令され、実施には至らなかったため今後機会を設けて合同行事を行っていく予定。また去年まで行えていなかった金子学童・第二学童合同での行事や盛大なイベントを行えることが出来た。			